

# 知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画について

○長期モニタリング計画とは…

自然の状態や観光利用の動向などを定期的にチェックし、その結果を遺産地域の管理方針の検討などに活用する（順応的管理を行う）ための計画。計画に基づき、遺産地域の関係行政、団体、専門家が連携して長期的なモニタリングと、その結果の評価を実施する。

メリット

⇒自然がもたらす様々な恵みを、将来にわたり持続的に利用するために不可欠な情報が得られる。

## 知床世界自然遺産の価値 (我々が維持しなければならないもの)

- ◆多種多様な生物が生息・生育している
- ◆海域と陸域の自然環境が密接に影響し合った豊かな生態系を有する



知床世界自然遺産としての価値は維持できているか？

### モニタリングの実施

行政機関、関係団体、専門家等

- I. 特異な生態系の生産性が維持されていること
- II. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること
- ...
- VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること

○評価するためのモニタリング内容

- ・適正利用に向けた管理と取組
- ・適正な利用・エコツーリズムの推進
- ・利用者数の変化
- ・ケイマフリ等の生息数・営巣数・分布調査
- ・ヒグマによる人為的活動への被害状況
- ・そのほか（事業実施状況、社会環境）

調査項目	調査内容	調査方法	調査時期	調査場所
ヒグマ	生息数・分布調査	カメラトラップ	毎年10月～12月	知床半島全域
ケイマフリ	営巣数・分布調査	目視調査	毎年5月～7月	知床半島全域
観光客	利用者数	アンケート	毎年10月～12月	知床半島全域
事業実施	事業実施状況	現地調査	毎年10月～12月	知床半島全域

聞き取り調査の例

★聞き取り先想定  
観光協会、観光船・ガイド事業者、羅臼町、斜里町、林野庁（GSS等）、環境省（AR等）など…  
★聞き取り内容  
利用状況の変化、管理に関する懸念など…

地域関係者

行政機関  
関係団体  
専門家  
地域住民  
利用者

保全・管理の実施

評価するためのデータ収集・とりまとめ  
※個人情報等は一切公表しない。

### モニタリング結果の評価

エコツアー戦略（利用コントロール、ルールの指導、ガイドの育成など）に沿っているか など

科学委員会/WG

地域連絡会議

地域の意見・科学的助言

### 遺産地域の管理施策の検討、見直し

遺産地域の適正利用に向けた方策（施設整備の方針や利用ルール）の検討 など

遺産管理に関わる行政機関等



## 長期モニタリング項目 No.20 聞き取り調査について

## 1. 対象団体

長期モニタリング計画に基づいて、検討会議の構成員や提案事業に取り組む 11 団体を対象に、知床のエコツーリズムに関する聞き取り調査を行った（2019 年 12 月実施）。

No.	団体名	No.	団体名
1	環境省	7	知床小型観光船協議会
2	林野庁	8	知床羅臼観光船協議会
3	斜里町役場	9	知床財団
4	羅臼町役場	10	知床ウトロ海域環境保全協議会
5	知床ガイド協議会		
6*	知床斜里町観光協会 知床五湖冬期利用促進事業検討部会	11*	知床羅臼町観光協会 赤岩地区昆布ツアー部会

\*調査対象が重複したため、1 団体として聞き取りを行った。

## 2. 結果

## ①「知床エコツーリズム戦略」の基本方針について

【基本原則】	該当
遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。	9 団体
世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。	9 団体
持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。	9 団体

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】	該当
事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。	9 団体
事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。	9 団体
自然環境の保全に配慮している。	10 団体
利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。	8 団体
事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。	7 団体
利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。	5 団体
事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。	8 団体
事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。	7 団体

【「該当」と回答しなかった者の意見】

- ツアー等の実施主体でないため回答できない項目があった。
- 戦略をよく知らない。設問の意図が分からない。
- 対象事業が広すぎて回答が難しい。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取組があるか

- 新たに始めた取り組みはないが、現在の事業の中で継続的に取り組んでいる。
- 知床五湖利用調整地区の立入規制期間を変更した（自由利用期→植生保護期）。
- 近年、流氷に対する関心が高まり、ドライスーツ着用が必要な「流氷ウォーク」に参加出来ない利用者向けに「安全に流氷とふれあうツアー」を企画した。ツアーには知床博物館でオオワシ・オジロワシの見学と知床の歴史及び知床の古代文化を見学する内容が含まれており好評である。
- 情報共有について、海上状況はもとより、動物の確認場所の共有に力を入れ乗船客のニーズにできるだけ応えられる環境づくりに取り組んでいる。
- 観光船のエンジンは環境に配慮したものを使用している。スクリューもクジラやシャチに配慮したものを使っている。
- 外国人向けの登山道地図の発行。
- リアルタイム観光情報共有システム「知床情報玉手箱」の管理運営。これを通じた地域関係者との観光情報の共有。外国人を含めた観光客への情報発信。
- 知床自然センター等拠点施設のリニューアル。
- ケイマフリなど海鳥の保護と利用の両立を目指し、調査の結果に基づいて知床の価値を高める活動を行っている。

②エコツーリズムに関わる利用者・参加者の数や意識、行動の状況について

利用者・参加者の数	
増加している	7 団体
減少している	なし
どちらともいえない・未回答	4 団体（取扱う施設・ツアー数等が多く一概に言えない）

利用者・参加者の意識	
変化している	4 団体
変化していない	なし
わからない・未回答	7 団体

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になる点はあるか

**【クマについて】**

- クマの人慣れが進み、人間側もクマへの警戒心が薄れてきているように感じる。
- 知床はまだクマ観光の要素が強いので色々な問題を多く抱えている。「クマが道路脇に出没し危険である」というニュース報道が、一般の人には「知床に行けばクマを気軽に観られる」と受け取られる。ひとつ間違えば大事故につながりかねないので、「知床ルール」のようなものが必要になってくる可能性がある。

**【外国人観光客について】**

- 羅臼岳登山（ウトロ側、羅臼側 共）について、外国人利用者が多くなってきた。外国語対応が不十分で、登山道にマナー啓発のための看板もないため、羅臼平で焚火をする等の問題行動も見受けられる。ピクトグラムや外国語看板の整備が必要である。

**【ガイドツアーについて】**

- ガイドツアーが自然環境へ配慮していることは参加者に十分に理解されていると感じる。またツアーを通じて参加者の世界遺産に関する知識も深まったと感じる。
- 漁師やガイドの話をメモする人や、ガイドツアーをもっと多くの人に知ってもらいたいという利用者が多くなってきている。
- 知床を知るにはガイドが必要という認識が定着してきた。

**【リピーター・連泊客について】**

- 知床は1日という時間では不十分だという認識の常連客が増加傾向にある。これは観光に携わる人達の努力の成果だと思う。
- 知床好きのリピーターはある程度いるが、全体としてはまだそんなに増えているとは思わない。知床リピーターをこれからどのように増やしていくかが課題である。
- 連泊客が増加した影響もあり、観光コンテンツを当日予約する利用者が増えてきているように感じられる（滞在中の天候で観光船の乗船を検討する、現地に着いてから予定を立てる等）。
- テレビの影響でシャチを見たいという人が多くなり、実際にリピーターも増えた。

**【主要観光施設について】**

- 施設の入り込みは概ね増加傾向。
- 利用者数も大切だが、数の増減だけで判断・評価しがちな印象を持つ。保全と利用の観点からは滞在時間や消費額、満足度などの指標が重要であり、これらの定期的・定量的な調査が不十分と感じている。また、外国人の動態に関する知見も不十分であるのが課題。

**【利用者の意識や行動について】**

- 訪問の動機や期待する体験が多様化していると考えられる。ニーズが多様化している一方、フィールドやアクティビティのバリエーションや質が追い付いていないのが現状。
- 羅臼湖利用者について、昔に比べて路上駐車が減ったイメージ。またゴミも少なくなったと感じる。

**【遺産地域の利用のあり方について】**

- 管理責任や安全対策、管理の縦割りなどが弊害となり、自然の中でより深く、より自由に楽しむ場所や機会が減少していると感じる。

③ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について

気になることや心配なことがある	11 団体
気になることや心配なことはない	なし

**【クマについて】**

- 海獣類の漂着が増加しており、衛生的な問題だけでなくヒグマが餌付くなど危険な状況が増加することが懸念される。
- 年々増加傾向にあるヒグマ出没数に伴い、十分なスタッフ数の確保が必要である。
- 雪解けが早くなりクマの目覚めが早くなると、春先の餌資源について心配である。以前はクマが獲った鹿を隠した土まんじゅうなどがよく見られたが今はあまり見られない。(残雪があれば鹿を捕まえられるが雪がないと狩りが難しくなる。)
- ヒグマとの軋轢はあらゆる場所で課題。観光面においては遭遇件数の増加や人馴れの進行という形で表面化しており、この傾向は当面継続するものと考えられる。ヒグマの動態や個体数をコントロールすることは現時点において技術的、社会的に難しい状況であり、利用者側の意識や行動の改善、管理システムの改善が必要。

**【気候変動の影響について】**

- 暖冬によりツアー実施日が短縮されている。
- 近年の温暖化の影響かもしれないが、強風による倒木が増えている。近年の湿った重い雪が樹木に降り積もり、雪が風で飛ばず、風倒木被害をもたらしていると思われる。鹿の採食圧（樹皮食い）による被害で、風が通りやすくなったことも一因と考えられる。
- 海水温の上昇に伴い、魚やそれを捕食する海鳥に変化がいつ大きく現れるかわからない。事業者として自然への負荷をできる限り軽減したいと望んでいるが、双方のバランスがとれているとは考えにくく、取り組む規模としてはあまりにも大きすぎる。
- 気候変動の影響については、長期的に大きな課題。知床においては気候の激化という形で表面化しつつあるように感じる。極端な寡雪や豪雨などが目立っており、フィールドの維持管理や情報提供においても、適応策が必要。

**【野生動物について】**

- キタキツネ、エゾタヌキ、オオセグロカモメなどが生息地または営巣地として住宅地周辺を利用している。人間に攻撃する被害、騒音や糞による被害、エキノコックスや狂犬病の感染が懸念される。
- 鹿を減らしたことにより、植物の復活が多く見られ、花が増えてきている。只、鹿が笹の新芽を食べなくなったことにより、笹が高くなりクマが隠れやすくなっている気がする。

**【ゴミについて】**

- 海岸ゴミの問題について、特にルサ側の海岸に漁具等の産業ゴミが多く、景観状良くない状態である。

**【ガイドツアーについて】**

- 観光客増加に伴うツアー数の増加により、ツアーコースの一極集中が顕著になってきた。
- フレペの滝や知床五湖は管理されていると思われるが、その他の象の鼻や男の涙などの場所はどのように管理されているのか。ガイドそれぞれが秘密の場所のようなコースがあり、クマガエラや猛禽類などの希少生物や踏圧の影響がないか心配である。
- 漁業境界線は超えないよう気を付けて運航している。

**【先端部地区等バックカントリーの利用について】**

- カムイワッカ湯の滝について、落石の危険性があるとしている通行止め区間の現地調査以来、事業が進んでいないことから、通行できるよう対応が必要。
- 登山道や先端部地区等のバックカントリーの利用については、外国人も含めて一定のニーズが見込まれる一方、安全対策や環境保全の観点からの情報提供や受け入れシステムが必要である。海域を含めたこうしたフィールドは知床の核心であることから、ルールや制度による保全担保が必須である一方、知床のシンボルとして強い発信力とブランド形成に寄与する可能性がある。

**【アクセスコントロールについて】**

- 利用者の集中するエリアと道路沿線においては、レクチャー等の情報提供やシャトルバス等によるアクセスコントロールが有効な手法と考えており、導入・拡大に向けた政策立案と合意形成が必須。ただし、これらは利用者ニーズを充足し、フィールドのバリエーションや利用の自由度の拡大を約束するものでなければ受け入れられないものと思う。知床五湖での取り組みは、こうした課題について一定の成果があり、知見も集積されていると考えられる。

**【その他】**

- 知床自然センターの駐車場拡張について。知床自然センターや 100 平米運動のきっかけは、知床伐採問題であると考えられる。全国から知床の森を守ろうと多くの人達が集まった。その知床において自動車での利用者の増加や五湖のバス利用のために林を伐採して工事したことは、由々しき事態であり非常に残念な行為である。利用の利便性を優先するあまりに林を皆伐するとは、世界自然遺産・国立公園において、あってはならない行為である。駐車場を拡張するにも他に方法はあったはず。
- 事業やツアーがしにくい行政においては、このアンケートでは記載が困難である。

④その他（外国人の動向、エコツーリズムに対する意見等）

**【外国人の動向について】**

- 外国人登山客の利用状況について、中途半端な時間帯に軽装で山の中腹を登っている利用者をよく見かける。登山に対する認識のずれを埋めるための工夫が必要（山小屋はないことや、天候、リスクの情報発信など）。
- 外国人については増加傾向が続いているが、施設やフィールドによるばらつきが大きい。こうした傾向を把握したうえでの対策が必要だが、信頼できる統計が少ない。
- アジア以外のお客が増えている気がする。個々での対応には限度があるので、知床としてのインバウンド対応の窓口が必要だと思う。
- 外国人旅行者は前年並み。宿泊ベースでは旅行者数全体の 10%程度である(11 月末現在)。流氷時期の伸びに期待する。国別では欧米系が若干増えている。
- アジア圏からの旅行者は必要最低限のお金で（観光船等、自然を観察するためにはお金を利用している）観光している様に感じる。
- 外国人のうち国や個人属性によりニーズや意識などは多様であり、現状ではその幅がより広がっている。また、外国人は知床だけではなく、本州も含めた周遊的な利用形態が主流。知床を訪問するにあたっては、トレッキングなどの自然体験や野生動物観察などの体験を期待する傾向が強い一方、こうしたニーズに充分に対応しきれていない。
- 外国人観光客が来られても恥ずかしくない「知床」にしたい。

**【エコツーリズムに対する意見】**

- エコツアー戦略に基づく提案数が少ないことが気になる。提案者のメリットをもう少し打ち出せると良いのではないかな。
- 総合的な情報発信と利用の促進について検討していただきたい。利用者へのメリットについても周知・利用ができる環境を願う。
- ヒグマによる交通渋滞や危険事例が発生し、社会的な問題として注目が集まっており、野生動物との軋轢解消が課題である。
- 今後エコツーリズムで羅臼町を観光地として強く推していく場合、現状の制度では問題が発生する可能性が高い。そのため、できることから物事を進め、最終的に自然保全を考慮した観光で羅臼町が繁栄してくことが理想である。
- 世界的に昆布が有名になってきているのを利用し昆布を通して知床のエコツーリズムを伝えていくことができるのではないかと考えている。
- 知床には貴重な自然があるからとの理由等で入れないルシャのような場所がある。一般利用者に対してその理由を説く意味でも、事前募集制で利用日数や人数に制限を設けて案内する、というツアーは貴重な自然を理解してもらう上で大切ではないか。希少価値の高いツアーには相応の価格を付ければよいと考える。

- カムイワッカ地区をはじめ園地の魅力向上や新しいフィールドコースが必要(例：ポンホロ(国民健康保安林)から開拓跡地(自然教室キャンプ場)自然センターまで)。ポンホロ入口は S 字カーブで狭く駐停車が危険のため、バスの羅臼線のポンホロ入口付近にバス停を新設してもらう。
- 定期路線バスの羅臼ウトロ線の時刻や便数を変更する必要がある。運行開始から両地域の観光を取り巻く環境は大きく変わり、地域の観光関係者や利用者からの需要が生まれている。バス運行の改善が観光に与える影響は大きい。
- 制度やルールは重要だが、これを的確に伝え、理解していただくことがより重要。そのような意味で、「わかりやすさ」や「合理性」などへの配慮が求められる。「五湖の利用調整地区の制度」「マイカー規制の乗り換え場所(五湖まで車両乗り入れできるにも関わらず、乗り換えできない)」「羅臼湖のルール」などについては、外国人に説明し、納得いただくのが難しい内容もある。